

既に世界遺産に登録された国内各地域における登録前後の観光入込客

### 登録前後の 観光入込客数の推移

世界遺産登録とは「世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約（世界遺産条約）」に基づく成約のことをいいます。つまり、一番の目的は「顕著な普遍的価値」があると証明された「文化遺産」、「自然遺産」、「複合遺産」を人類共通の財産として、恒久的に保護することにあります。

しかし、近年、日本では観光振興を通じた地域経済の活性化を図ることを、登録の副次的な狙いとしているところも少なくありません。『世界遺産のあるまち』という称号を生かし、地域を盛り上げていきたいという思いは、どこの地域も同じです。

## 称号がもたらす 地域経済の活性化

先輩地域からみる観光入込客数の傾向

### 国内世界遺産登録前後の 観光入込客数の推移 ★=世界遺産登録年



数の推移を概観すると、3つのパターンに大分されると公表されています。

**第1のパターン**  
登録がきっかけとなって観光客が徐々に増加してくるタイプ。「白川郷・五箇山の合掌造り集落」がこれにあたります。この資産は、登録直後に1.5

倍から約2倍へと増加し、その後の集客は安定的な増加傾向に向かいます。

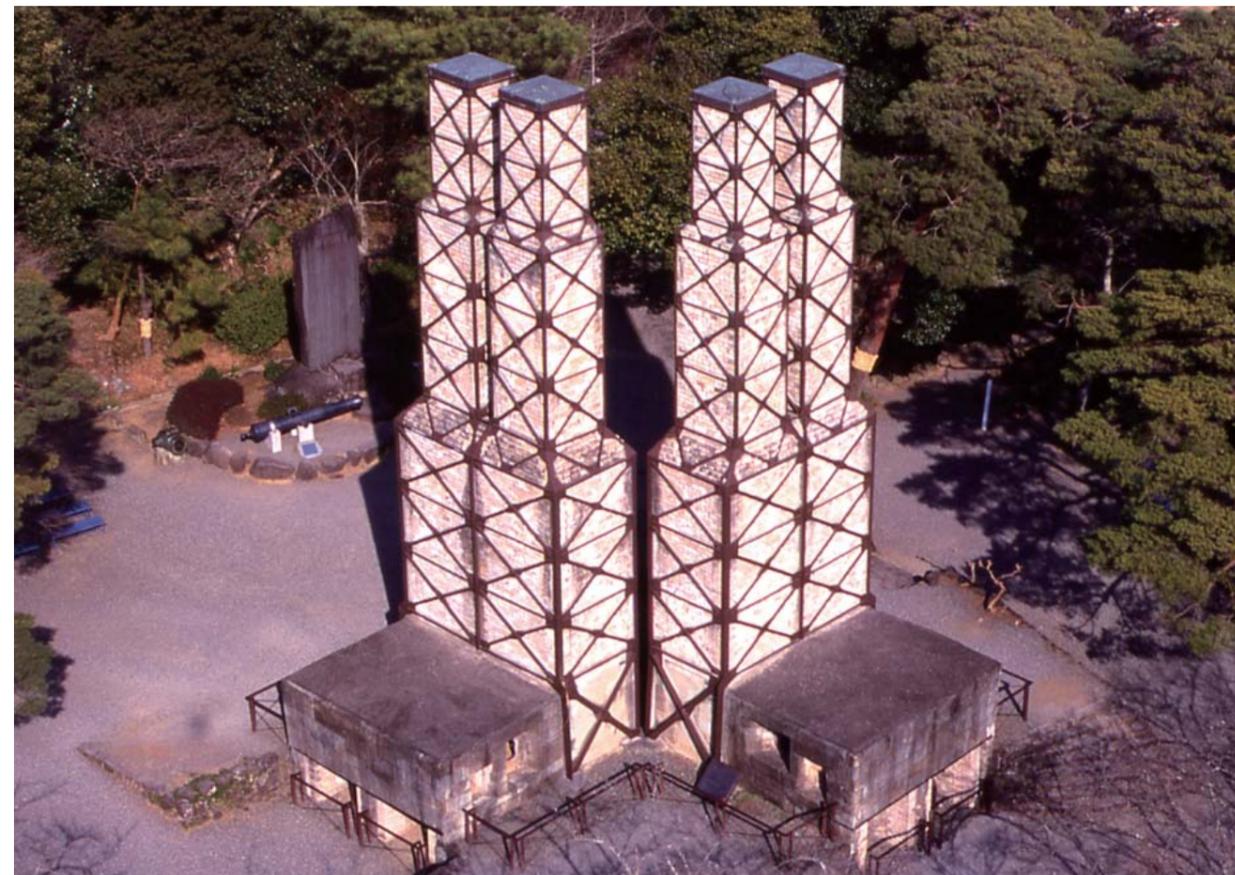
**第2のパターン**  
登録直後は増加するものの、その集客効果は1年ほどしか持たずに元に戻ってしまうタイプです。「日光の社寺」や「石見銀山遺跡とその文化的景観」などです。

**第3のパターン**  
「厳島神社」にみられるように登録以前より観光客が減少してしまっているタイプです。厳島神社の場合は、台風による被

害が観光客の変動に及ぼす影響が少なくないと推測されます。また、近年はNHK大河ドラマの影響もあり観光客が増加に転じてきています。

3つのパターンに共通しているのは、登録が契機となり、一時的な場合もありますが、観光客が増加していることです。言うまでもなく、望ましいのは「白川郷・五箇山の合掌造り集落」の観光入込客数の推移です。

出典 『まちづくり、を考える情報誌「おっ!! まっちい〜第83号」』  
帝京大学 経済学部観光経営学科 大下ゼミ  
資料：世界遺産ガイド（日本編）2012改訂版  
世界遺産ガイド（日本編）2014改訂版



富士山反射炉世界遺産登録決定記念特集

# “称号”と“責任”の先にあるもの

—世界遺産のあるまちの目指すべきカタチ—

市役所世界遺産推進課 ☎055-948-1425

7月5日22時37分、富士山反射炉の世界遺産の仲間入りが決定した瞬間です。ドイツで行われていた世界遺産委員会を、生中継で視聴していたパブリックビューイング会場の富士山時代劇場は、割れんばかりの歓声に包まれました。

この瞬間、私たち伊豆の国市は、『世界遺産のあるまち』の“称号”を授かりました。この称号には大きなチカラが宿っています。それまで無名だった地域を、国内のみならず世界中に知れ渡るほど認知度を高め、地域を訪れる「交流人口」の増加を生み出します。交流人口の増加は観光振興を促し、地域経済に大きな影響を与えます。

世界遺産登録は、この称号の他にも一つ重要なものを私たちに授けました。それは「責任」。世界に対して約束した「富士山反射炉を未来へ継承すること」を守るために、私たちには大きな責任を果たす義務が課せられました。

これからの伊豆の国市にとって大きな影響を及ぼす「称号」と「責任」。この中で、世界遺産のあるまちとして目指すべきカタチとは。そして、私たちの取り組むべき行動とはどのようなものでしょうか。

地元が守る！

## 「白川郷荻町集落の自然環境を守る会」

平成7年に世界遺産登録された「白川郷・五箇山の合掌造り集落」。

構成資産の一つである「荻町集落」では、昭和47年に地元住民で組織する「白川郷荻町集落の自然環境を守る会」を設立しています。

同会は、祖先から受け継いだ荻町集落の美しい自然と素朴な人情に包まれた合掌集落の環境を保護し、永く次代に継承、住みよい郷土を保持し、もって住民の生活安定を図り、地域振興の促進に努めることを目的としています。

現在も「守る」「くらす」「つなぐ」をスローガンにさまざまな活動に取り組んでいます。



## 子どもたちにも「先人の思い」を伝えていきたい

自分たちにとって身近な葦山反射炉が世界遺産に登録されたことは、子どもたちにも大きな影響を与えています。なかには「自分たちだけでなく、みんなの宝物になった」と自慢する子も。

これからは葦山反射炉の役割とともに、葦山反射炉を守ってきた先人の思いや世界遺産登録の重み（後世に残すことの重要性など）も子どもたちに伝えていきたいと思っています。



共和幼稚園  
鈴木直美 園長

## ようこそ葦山反射炉へ

横浜市からお越しの久保田さんご夫婦（お孫さんとともに）



ガイドの説明を聞いて、反射炉について学ぶことができました。観光客にとってガイドはとても重要。歴史や価値の説明に加え、まちの魅力が“人”を通じて伝わってきます。葦山反射炉はガイド施設など、まだ未整備なところも多く、これからますます楽しい場所。また来たいと思いました。

皆さんが「もう一度訪れたい」と感じる場所は、どういうところですか。皆さんが観光地を訪れ、現地の人と接したとき、目を輝かせて自分たちのまちを紹介してくれたら……。きつとそのまちに好印象を抱き、「また来たい」と感じるのではないのでしょうか。

世界遺産のあるまちに住む私たち。今後、市外から訪れる人たちと接する機会は、ますます増えるでしょう。市内には葦山反射炉

## おもてなしの心で自分たちのまちを自慢

皆さんが「もう一度訪れたい」と感じる場所は、どういうところですか。皆さんが観光地を訪れ、現地の人と接したとき、目を輝かせて自分たちのまちを紹介してくれたら……。きつとそのまちに好印象を抱き、「また来たい」と感じるのではないのでしょうか。

イ コモス勧告後、爆発的に増加した葦山反射炉への観光客。一過性で終わらせないために、私たち市民はどうしたら良いのでしょうか。継続的に観光客に来てもらうためには、「また来たい」と思ってもら

# 「また来たい」の獲得を おもてなしの対応で観光客の

継続した誘客につなげるために

## 守り・伝え・発信する

世界遺産登録の先輩にあたる「白川郷・五箇山の合掌造り集落」。その構成資産の一つである「荻町集落」では、登録される20年以上前から、環境保護、次世代への継承などを目的とした住民団体が設立されています。そして登録後の今なお、住民が率先して守り、伝え、発信してきたからこそ、登録から20年が経過した

だけでなく、江川邸や国宝の運慶作諸仏が眠る願成就院などの歴史資産、イチゴやスイカ、ミカンなどの旬な食材をはじめ、自慢する素材が盛りだくさん。訪れた人自分たちのまちを「おもてなし」の心で自慢できたら、「住む人たちの魅力」伊豆の国市の魅力が伝わるのではないのでしょうか。そのためにも、まずは私たち自身自分たちのまちについて、よく知ることが大事。それが継続できてこそ、にぎわいを創り出すリーダーの獲得につながります。

## ようこそ葦山反射炉へ

静岡市からお越しの海野さん（左）と大石さん



観光地で地元の人と接するとき、こちらの質問にフレンドリーに答えてもらったり、答えのほかに「おまけ」の情報がもらえたりすると、とてもうれしいです。

例えば、反射炉について訪ねたとき、近くのおいしいお店や穴場のビューポイントなどの「地元ネタ」も聞けたら、そこまで足を運びたいですね。

今も、登録前とは比較にならないほど、多くの観光客が足を運び続けています。

葦山反射炉を未来に継承することを約束した伊豆の国市は、今がまさにスタート地点です。私たちは目の前にある世界遺産のことを深く学び、その由緒や価値を深く理解し、多くの人に、そして、ずっと後の幾世代までも伝えていかななくてはなりません。葦山反射炉を未来へ守り継ぐためには、市民の力は欠かせません。

## 国内で

## 【全国に存在した反射炉一覧】

## 『唯一現存する反射炉』の真相

幕末期には全国に10以上も築造された反射炉ですが、現在は「葦山反射炉」と「萩反射炉」のみ、その姿を留めています。しかし、萩反射炉は試験炉のため、実際には大砲の鑄造は行われていません。したがって、葦山反射炉は、実際に大砲を鑄造した反射炉の中で、唯一現存する反射炉になります。



④⑤⑦ = 『明治日本の産業革命遺産』の構成資産

番号	資産名	所在県市町村	完成年	本体施設(現存)	概要
1	築地反射炉	佐賀県佐賀市	1851年		日本最初の反射炉
2	多布施反射炉	佐賀県佐賀市	1854年		
3	安心院反射炉	大分県安心院市	1855年		豪農賀来家の経営現地に碑文
④	葦山反射炉	静岡県伊豆の国市	1857年	◎	大砲鑄造用反射炉
⑤	萩反射炉	山口県萩市	1856年	◎	試験炉
6	那珂湊反射炉	茨城県ひたちなか市	1856年		橋野高炉の契機
⑦	集成館2号反射炉	鹿児島県鹿児島市	1857年	○	基礎が現存
8	六尾反射炉	鳥取県北栄町	1857年		大庄屋武信家の経営
9	大多羅反射炉	岡山県岡山市	1865年		庶民による反射炉・鑄砲
10	滝野川反射炉	東京都北区	1866年		詳細は不明
11	博多反射炉	福岡県博多区	不詳		鑄物師磯野家への委託、詳細は不明

## 韮山反射炉周辺の整備計画



展望台（E）から反射炉と富士山を望む



多目的広場（B）からガイダンス施設（C）と反射炉を望む

### 平成 28 年度までに 実施（完了）する主な事業

- A：北東部公園の整備
- B：多目的広場の整備
- C：ガイダンス施設の建設
- D：駐車場の一体的整備
- E：展望台の整備  
(韮山反射炉と富士山を望むことができる展望台と遊歩道を整備)

# 世界の宝を身近に 持つことの対価

「世界遺産」を「未来へ継承する」ことを約束した伊豆の国市。そのためには、市民にとってマイナスイメージ要素もあることを私たちは心得ておかなければなりません。

課せられた「責任」に立ち向かう

## ボランティアガイドをバックアップ

韮山反射炉の歴史や価値を正しく伝えることは、訪れてくれる皆さんの満足度に大きな影響を与えます。増加する観光客に「もう一度来たい」と思ってもらえるような「おもてなし」のガイドを育成するため、市では伊豆の国歴史ガイドの会の活動を支援します。



ガイドの会  
小松逸夫 会長

少しでも興味のある人は、  
気軽にご連絡ください。  
市役所観光課 ☎ 055-948-1480

これは「世界遺産」という世界の宝を身近に持つことの「対価」です。

### 未来へ残すための 維持管理とその財源

世界遺産は、一度登録されれば永久に登録され続けるものではありません。急速に進む損壊や都市開発などによる滅失の危険、大規模な災害などにより現状を維持することができないとユネスコに判断された場合、世界遺産リストから除外される可能性もあります。そうならないためにも、維持管理は欠かせません。日常的な維持管理に加え、特定年度に必要な応じて行う保存措置も確実に行わなくてはなりません。しかし、登録されている資産に

## 反射炉本体修理工事

最後の修理工事が完了した昭和 63 年から、既に 27 年が経過しています。煙突部の煉瓦や目地モルタルの劣化が目視でも確認されており、再度修理工事の実施が必要です。



昭和 60 年から 4 力年かけて行われた修理工事

現在、築造当初のオリジナル煉瓦が約 8 割残存しており、それらをいかに保存していくかなども踏まえ、市では、国内外の専門家や国の関係機関などと修理工事実施に向けた検討を進めています。



著しい劣化

表層劣化

健全な煉瓦

## 情報を共有しながら 適切な保全を



萩市には 5 つの構成資産があり、今後、維持管理の面で市に負担が重くのしかかりますが、将来にわたりそれぞれ適切な措置を講じていかなければなりません。特に、萩反射炉は韮山反射炉と同じく修理工事の実施が必要な状況となっており、伊豆の国市とも情報を共有しながら作業を進めています。

「明治日本の産業革命遺産」23 資産の内、1 資産でも適切な保全が損なわれると、全体の価値が失われることとなります。関係 8 県 11 市の住民が一丸となって資産を守り伝えていきましょう。

萩市役所  
世界文化遺産課  
阿武 宏 課長



## ユネスコからの課題

### ～構成資産間の連携を強化～

世界遺産登録決定時、ユネスコは私たち「明治日本の産業革命遺産」に課題を与えました。その一つに『構成資産間の連携の強化』があります。8 県 11 市、23 の構成資産が日本国内に点在するのが特徴の「明治日本の産業革命遺産」。今後は、世界遺産としての価値や歴史、全体像などを、広く効果的に普及していくためにも、行政間の連携は欠かせません。



「明治日本の産業革命遺産」が提出した世界遺産登録推薦書（左）と管理保全計画

世界遺産登録された資産は、法律などによりさまざまな制約を受けます。韮山反射炉の資産範囲には、河川も含まれており、文化財保護法だけでなく河川法などによる規制も適用されているのが特徴です。これらは、資産を開発による圧力や自然環境の変化などから守るための必要な措置です。

### さまざまな制約を受ける 世界との約束

補修などの手を加えることは安易にはできません。世界遺産価値に与える影響について十分検討したうえで、必要な措置を講じなくてはならないのです。いずれの場合も、韮山反射炉を維持管理していくためにかかる経費は、伊豆の国市の負担になります。必要に応じて行う保存措置は、国や県の補助金を活用しますが、市の負担は欠かせません。

また、資産周辺の景観は、世界遺産としての価値に影響を及ぼす大切な要素です。そのため市では「伊豆の国市景観条例」を今年 1 月 1 日に施行。反射炉周辺を景観重点整備地区に指定し、住宅の壁や屋根の形などの基準を設けました。

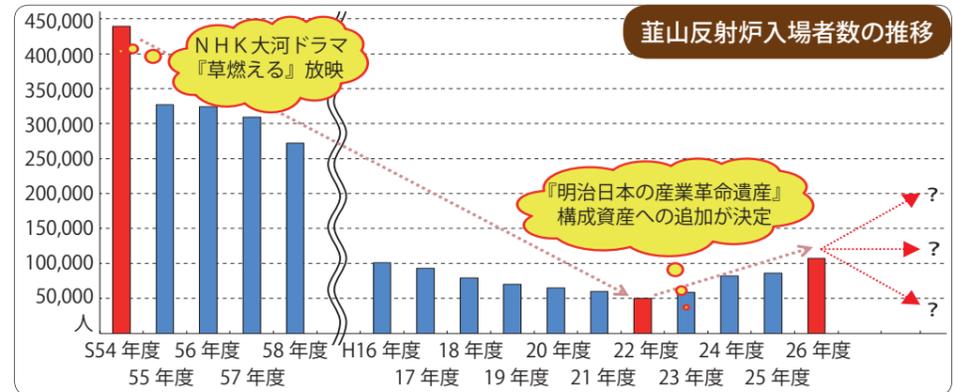
“称号”を生かしたまちづくりを

# 千載一遇のチャンスで 自分たちの手で

首都圏中央連絡自動車道(圏央道)の開通は、北関東と伊豆の距離を縮めました。東駿河湾環状道路と伊豆中央道の接合は、伊豆半島の付け根に位置する伊豆の国市への門戸を拡げました。そして、葦山反射炉の世界遺産登録は、伊豆の国市を世界の舞台へと押し上げました。

世界遺産登録という明確な目標とは異なり、伊豆の国市にとっての地域振興の道に鮮明な答えはありません。伊豆の国市に合った独自の道を、自分たちの手で切り拓かなくてはなりません。

みんなの力で手繰り寄せたこの千載一遇のチャンス。これを機に全国に伊豆の国市ファンを増やしましょう。「世界遺産のあるまち」という称号を生かし、伊豆の国市色のにぎわいのあるまちづくりを進め、「住んでよし」「訪れてよし」「また来てよし」のまちを市民の皆さんと共に作っていきましょう。



世界遺産登録に関連する  
主な取り組み

- ▼ 静岡県主催により県内各地で「葦山反射炉県民講座(仮称)」を開催(秋ごろから開催予定)
- ▼ 「三島市と伊豆の国市との歴史・文化交流及び協力に関する協定書」を締結
- ▼ 「いずのくに大使」を著名人3人に任命。市の魅力を全国に発信。
- ▼ 伊豆の国市への「ふるさと納税」の返礼に、市内宿泊施設などで使用できる感謝券を贈呈。
- ▼ 市内小中学生に葦山反射炉ポストカードを配布。 ※小学生は5・6年生対象
- ▼ 葦山反射炉応援団による葦山反射炉定期清掃(毎月第3日曜日) ※会員以外も参加可
- ▼ 伊豆の国市建設業協会による葦山反射炉周辺(河川など)の清掃
- ▼ 伊豆の国市商工会による反射炉ブランドの認定 ※市内4施設にアテナショップを開設
- ▼ 伊豆長岡温泉旅館協同組合による市内商店や観光施設などで利用できるプレミアム付き商品券「伊豆の国満喫券」の販売(9月開始)

“称号”と“責任”は2つで1セット

## 葦山反射炉

### “南炉”と“北炉”が立つ理由

皆さんは葦山反射炉が、なぜ、南炉と北炉が存在し、それも直角の配置で立っているのかをご存じですか。

葦山反射炉は幕末に鉄製大砲製造を目的に築造された溶解炉です。当時の大砲は、24ポンド砲(砲身重量約3t)が主流でした。しかし、当時の最先端技術を駆使して築造された反射炉ですら、1炉1回の作業で1~1.5t程度しか銑鉄を溶かすことができませんでした。つまり24ポンド砲を作り出すためには、2炉以上が必要であり、当時、全国にあったほとんどの反射炉は、2炉で1セットとして築造されました。

さらに、葦山反射炉では南炉と北炉で溶けた鉄を1つの鑄型に流し込むことを可能にするため、南北の炉を直角に配置し、出湯口から鑄型までの距離が最短となるように作られています。

この姿を今も留めていることも、世界遺産としての価値が認められている要因の一つです。

世界遺産がもたらした“称号”と“責任”は、これからの伊豆の国市にとっても大きな課題です。しかし、課せられた“責任”を真摯に受け止めたうえで、“称号”を生かしていかなければ、世界遺産のあるまち伊豆の国市に明るい未来はありません。

“称号”と“責任”は、葦山反射炉の“南炉”と“北炉”のように2つで1つのセット。どちらが欠けても役割を果たすことはできません。そして、その関係は、反射炉を『未来へ継承する』と世界に約束したこれからのまちに引き継いでいかななくてはなりません。

“南炉”と“北炉”と同じように、これからの世界遺産登録がもたらした“称号”と“責任”は、寄り添うように未来を向いて立ち続けます。

